

2024 年 7 月 10 日

2024 年度聖路加国際大学大学院看護学研究科

課題研究

脊髄損傷で排便障害のある患者の排便ケアについての文献検討

Bowel Management for Patients with Defecation Disorders

Due to Spinal Cord Injury: A Narrative Review

21MN009

岡部慶子

要旨

【目的】脊髄損傷患者の排便コントロールについての先行研究から、脊髄損傷で排便障害のある患者に対して便秘や下痢、便失禁を軽減し便性状を整えるための排便ケアの現状と課題を知ることを目的とした文献検討である。

【方法】医学中央雑誌 Web を使用し、脊髄損傷患者に起きている排便障害と脊髄損傷患者の排便ケアの現状と課題を知るために、「脊髄損傷」を固定し、「排便障害」に関連する語をキーワードとして設定し検索を行った。検索期間は 2010 年～2023 年とした。

【結果】1.脊髄損傷患者に起きている排便障害について 149 件が該当し、文献選定の基準に適したものと、ハンドサーチで 5 件追加し、11 件を分析対象文献とした。

消化管の機能低下は、蠕動運動不全や便の大腸通過時間が延長している傾向にあり、非便秘健常者より硬便になりやすい。そして、直腸内に便が貯留しやすく直腸知覚が低下・消失するため排便のタイミングが難しい。また、便意の知覚に関しては、低下や消失、正しく感じることができないといった表現があり、脊髄損傷患者自身の認識の違いや個体差が示されている。便の排出には、便が直腸まで降りてきていることが重要であり、降りてきた便を押し出す力も同じく重要であることがわかった。

2.脊髄損傷患者の排便ケアの現状について 128 件が該当し、文献選定の基準に適した 15 件を分析対象文献とした。

①保存的治療方法、②侵襲性が低い治療方法、③侵襲性が高い(外科的)治療方法がある。保存的治療方法については、「栄養と水分摂取/生活様式の変更/下剤」があり、患者の状態をアセスメントして排便ケアを実施していく。

そして、3. 脊髄損傷患者の排便ケアの課題については、2. で得られた 15 件うち、排便ケアの課題が記載されている 8 件を分析対象文献とした。

対象となる 8 件について課題を抽出し 7 つのコードに分類した。

- ①ペリスティーン®等の洗腸用機器の開発や継続使用率について調査する必要性
- ②若年の脊髄損傷患者では、在宅サービス未利用者が多く患者や家族の自律神経過反射に対する知識不足あり、自律神経過反射の原因除去が困難な場合は在宅サービスの導入が必要
- ③入院中の排便管理は介助のもと下剤の内服と摘便でなされ、退院時は便失禁の不安から食事摂取制限や朝食の欠食がある
- ④脊髄損傷患者の負担が少なく簡単に取り入れられる排便ケアの実施
- ⑤慢性期においては、下剤の長期内服による副作用の予防対策をし、個人の排便アセスメントをし非薬剤性での排便管理方法を検討することが必要
- ⑥脊髄損傷患者の家族指導の標準化
- ⑦指圧・マッサージ刺激の手技の標準化

【結論】脊髄損傷患者の排便ケアについて、文献検索で得た知識や科学的な基盤に基づき、チームで協働し看護を実践していく。